社会福祉法人 基弘会

KIKOUKAI通信

vol.4
2020.10

TOP TOPICS

スペシャル対談
基弘会流介護技術のルーツ

KIKOUKAI TOPICS

鳥取県視察レポート
忘れてはならない日本の原風景を取り戻す

KIKOUKAI COLUMN

SK式ケア接客のルーツを辿る

スペシャル対談

基弘会流 介護技術のルーツ

介護総合研究所 元気の素
上野 文規

社会福祉法人基弘会
特別養護老人ホーム夢の箱勝山
江田雅晴

社会福祉法人基弘会では、毎年上野先生にご指導いただき、介護技術習得のため研鑽を積んでいます。今年はコロナの影響で研修プログラムを詰めて短期集中講座で受講していますが、むしろ集中して取り組む事ができて参加スタッフの士気も高まり「災いからの理」であると感じています。

そんな介護技術研修をご指導いただいている上野先生にインタビューを行いました。

上野先生と基弘会のご縁はどのように始まったのでしょうか?法人の歴史を知り、介護技術をもっと深く知っていただければと思います。

厳しさの裏にある
上野先生の熱い想いを
お聞きしました！

アテンダー
広報戦略室 室長　山本郁子

山本：基弘会との最初の出会いを教えていただけますか？

上野：最初は人の縁だと思う。25年ほど前、僕は大阪の生野区役所からの依頼で地域ネットワーク推進委員会の活動をサポートするため「遊びリテーション」を指導するなどの活動を行っていました。
※老人保健法による地域ネットワーク推進委員会が発足され、区内地域へ推進委員が高齢者宅を訪問したり、地域ごとにサロン活動を始めていた。
当時の生野区地域ネットワーク推進委員さんはとても熱心で、地域ごとのサロン活動でも意欲的に遊びリテーションを取り入れながら活動をされていたので、保健福祉の活動は大阪24区一番だった。生野区全体で行った運動会イベント「元気で!いくの運動会」をやりましょう、と提案したのも実は僕なんです。

山本：ちょうど平成10年から20年頃でしょうか。生野区の推進委員さんや、区内の介護事業所が一丸となって「元気で!いくの運動会」を企画して地域を盛り上げようと、夢の箱も実行委員として参加していましたね。

上野：当時、推進委員の一人だった方が、夢の箱生野の前施設長である「山本真知子さん」でした。そのようなご縁の元、平成23年に夢の箱が特養を建設するので、上野に力を貸してほしいとご依頼いただいたのが、基弘会とご縁をいただいた最初でした。
本部長さんが自分の目で上野の介護技術を見たいとおっしゃられたので、京都の某施設さんの介護技術指導に一緒に参加いただきました。
その施設のスタッフさんの士気の高さや、上野の『熱い指導』をご覧いただいて、ぜひ夢の箱の特養もこんな施設にしたいと、ご依頼いただくようになりました。

江田：川西本部長が上野先生の技術指導の基弘会最初の参加者だったというわけですね。

上野：特養夢の箱勝山を作るために、組織力を上げていくための前段階として平成22年から指導が始まりました。
僕はいつも研修の冒頭に、あなた方が働いている基弘会の事を僕なりの言葉で伝えています。基弘会は日本中に数ある法人施設の中でも、『地域ケア』から始まったのが特異性であると、だから『地域ケア＝ちいきのきずな』を基弘会のスタッフが学び継続していくべき使命なのだという事を指導の中で伝えています。
法人の成り立ちや文化の意味合いを、ここで働くスタッフはぜひ感じてほしい。

山本：特養の施設設計の部分も、上野先生に監修していただいたんですよね？

上野：川西本部長も、上野がそんな介護施設の設計監修ができるということを最初からご存知ではなかったので、設計図ができた段階で、相当『手直し』をさせていただきました（笑）
特に水回り・トイレ・お風呂の空間は初期設計とはまるで変わっています。機械浴を削ったのも僕ですが、これは『機械浴を使わない』という川西本部長の想いも同じでしたから。

山本：お年寄り目線の設計で手すりなどの高さやキッチンカウンターも低く作られていますね。『ご利用者が主体』なのは介護技術も空間も同じですね。

江田：先生にご指導いただくようになり今年でちょうど10年になりますが、上野先生から見た基弘会の印象はどのように変化していますか？

上野：かなり変わりました。最初はどうしようかと（笑）

江田・山本：（笑）

上野：最初は本当に『黒船襲来』ですよ。どの法人さんでも、ご指導する時はいつもそうなんですが、まずは新しい事や変わる事への『抵抗力』との闘いです。だからかなり厳しくご指導しました。それは今でも、やる気のない

スペシャル対談 基弘会流・介護技術のルーツ②

上野：人はついてこれないようにわざとしています。
そうすると、ちょっとずつ皆さんから芽が出てくる時期が、やって来るんですよね。
江田君にはそんな芽が出たスタッフたちの頼れる兄貴分として気軽に相談できたり、練習している時も陰ながらチェックしてくれたり、上手に船をこぐ役をしてもらっています。

山本：介護技術研修の終了試験合格の証『ブラックカード』とは、どんな存在でしょうか。

江田：ブラックカードって人に認められるものじゃなくて、自分が頑張った証だと思いますね。油断してたら「あいつがブラックカード持ってる…」と、それに焦ったりもして、切磋琢磨が生まれたりします。

上野：ブラックカード自体は何の効力もないです。給料がそれによって上がるわけじゃないし。だけど、カードを取った事が『自信と自覚』に繋がって、おのずとピックされますよ。ブラックカード取ったから、じゃなくて、それによって君が変わったからこの仕事を任せるよ、っていう風になっていくものだと思いますね。

山本：ここ数年、合格者の人数もどんどん出てきていますね。

上野：優秀ですよ。おととしあたりから参加者の技術や気構えはブラックカード獲得したスタッフも、そうでないスタッフも、紙一重のレベル感です。

山本：現在基弘会には10名ほどのスタッフがブラックカードを獲得させていただいておりますね。

上野：全国にご指導に伺っていますが、ここ7年間では20枚ほどしか新規発行していないので、そのうち半分は基弘会のスタッフが獲得していることになります。

山本：それは誇らしいですね!

上野：合否は関係なくて、気持ちを注いで研鑽して、それが自分の自信と自覚につながって、組織の中で良い循環を起こす、人を導く人財に成ること。それがこの研修の目的であって、そこに到達することが大事なんだと思う。

江田：今年は大丈夫、新たなブラックカードを獲得出来るスタッフが出るでしょう。皆、向き合い方も変わって、顔つきも変わって、周りを巻き込んできている。自らが動き出して、集まって練習したりしてる。とても楽しみにしてます。

上野：そこに向かうプロセスや努力が大事なんであって。ぜひブラックカード取ったスタッフには一杯褒めてほしいし、期待を込めて応援してあげてほしいし、法人の屋台骨を支える一員として、そこからさらに成長させてやってほしい。

山本：今日は貴重なお話、ありがとうございました。時間の関係上割愛しましたが、上野先生がなぜこんなにもカレーが好きなのかとか、もっと色々聞きたかったんですけど（笑）

上野：また、ぜひインタビューしてください（笑）

江田：ありがとうございました。今年度も最後までご指導よろしくお願いいたします。

KIKOUKAI TOPICS

【鳥取県視察レポート】

忘れてはならない日本の原風景を取り戻す

社会福祉法人として果たすべき今後の役割・使命とは何か、本部長の考える大きな課題の答えを探すべく、我々広報も鳥取県の視察に同行しました。
今回の視察を経て、今後の方向性を具体的なものに変える確かな手応えがありました。帰りの車中での会話から一部を抜粋してお伝えします。

DATE: 山菜料理 みたき園

田舎料理の素材を上手く発信し、世界観を作って地元雇用と海外など遠方からの客層を獲得する成功事例の店舗。

戦後、大きな経済成長を遂げた日本、私たちの生活は豊かで便利な時代になりました。基弘会発祥の地である大阪も、昔とはずいぶんと様変わりしてきました。

基弘会が発足した昭和60年代よりもう少し前の大阪はまだまだ空き地も多くて、子どもたちは隣近所のお家に自由に遊びに行き、地域の大人たちに見守られながら成長していました。しかし近代化の代償のごとく時代は変化をし、そんな近所付き合いや地域との繋がりだとかが失われ、『古き良き日本の文化』を我々現代人は失くしてきているように思うのです。それは、

そんな人と人とのつながりだったり、水や、土地や、風や、海や、川や…『自然』そのものだったりするのではないでしょうか。

介護・医療といった社会保障分野を支える仕事をしている我々社会福祉法人が、次に社会へできる役割を創っていく使命。それは、日本の生活の中に以前は当たり前に存在した『原風景』を取り戻していくお手伝いをしていくことではないかと考えるのです。

都会の中で確実に進む何かの喪失を、例えば田舎にある『地域再興』の取り組みにヒントを得て、次なる一手を模索しています。

DATE: タルマーリー

地域循環を【発酵】を軸に展開。販売されているパンそのものは素朴だが、地域資源の使い方や巻き込み方、ストーリーの発信が面白い店舗。

社会福祉法人基弘会編集部が発信する WEB メディアマガジン『くらしのふふふ』。

ふだんのくらしをしあわせに、50年後が楽しみになる暮らしのヒントをお届けすることを目的とした、様々なジャンルの記事を投稿しています。

今回は施設のコロナ感染を経て、本部長が書き下ろした記事の冒頭を転載します。

Text by Shuji Kawanishi

コロナ感染から得た会社経営

我々介護事業者にとって、このコロナ禍の恐怖とは、①休業要請発動の恐怖、②休業後の再稼働の際の恐怖、③コロナ感染者発生時の恐怖、④コロナ感染による重症化の恐怖、この順番でした。つまりコロナウィルス自体の怖さが4番目。これは介護職に従事する者にとっては概ね共通の認識ではないでしょうか。

1番は休業要請による恐怖。休業を要請された上に、補償は無し。パチンコ屋さんのように、休業要請を無視し開業し非難されるようなことがあれば、地域からの信用は失墜し営業できなくなる恐怖がまずは頭を支配しました。かと言って、本当に目の前のお年寄りの毎日の健康管理、お食事、衛生面・清潔の確保などは必要不可欠な方も多く、その期間が長引けば命にも影響するため、サービスを停止させることはできません。ギリギリの選択を迫られることは避けられない。それにサービスを停止したうえに補償がなければ、経営面や職員確保に大きく影響が及び、再開が難しくなることも容易に想像できます。つまり休業要請発動は即座に倒産の危機を意味するのです。

そこで2番目の再稼働の際の恐怖へと繋がっていきます。名古屋市でも起きたように、〇〇区と〇〇区が休業停止という命令が出ると、地域の信用を守るために休業を選択せざるを得ません。そうすると介護サービスが必要な利用者の方は隣接区のサービスを利用するようになります。命にかかわることですから当たり前の選択です。緊急時に他施設にお世話になった利用者側の立場にたてば、緊急事態宣言解除後に元の施設に戻ることは人間関係や心情的に困難になります。つまり、これまで築いてきたお客様との関係が一定割合で途切れてしまうことになります。しかも、休業要請時には雇用調整助成金を活用し職員を引き留めたとて、それなりの会社負担分も発生し経営的には赤字に累積になります。再開後に賞与の支給も困難になります。せっかく確保し、育成した職員の離職も余儀なくされる可能性が出てきます。線路を挟んだ向こう側の施設は運営しているわけですから。

そんなことを思い巡らせていると3番目の感染者発生の恐怖が襲ってきました。隣接施設の大量感染者の発生です。このコロナウィルスの感染に関しては当初、重症化もしくは感染後の合併症による死亡の恐怖を煽られていましたが、いつの間にか軽度な症状又は無症状のまま感染を広げてしまう恐怖にすり替わっていました。隣接施設の感染も残念ながら若干名の死亡者も出てしまいましたが、多くの方は軽症もしくは無症状という、感染予防の観点では対策が一番難しい状態での感染拡大が起こってしまいました。しかも、マスコミの報道はまるで感染者が加害者のように報道されてしまっており、その様子は恐怖でしかありませんでした。

実は大量感染が発生した施設は当法人施設に隣接しており、テレビ報道の際に当施設への道路案内看板が映り、翌日は電話問い合わせが鳴りやまない程でした……

記事の続きはこちらから→

SK GALLERY

NO.2_YUME NO HAKOBUNE

基弘会の施設には大小さまざまなアート作品が飾られているのですが、誰のどんな作品か…皆さんご存知ですか?このコーナーでは、知れば知るほど面白いアートの魅力をお伝えしていきます!

作者を知り、作品を読み解く

今回は夢の箱 生野の相談室に飾られている「夢の箱舟」をご紹介します。

「夢の箱舟」は小澤摩純氏の作品です。多くの芸術家を排出している女子美術大学出身で、卒業後は絵本や書籍の挿絵も数多く手がけています。特徴的な作風ですから、見覚えのある方もいるかもしれません。

小澤氏は西洋の宗教画に通ずるファンタジックな絵を多く描いていますが、絵の色味は古典的な西洋画とは違い、力強さを感じませんか? この「夢の箱舟」も縁を彩る模様が南米の伝統的な織物に似た色彩です。これは作者が幼少期に過ごした南米での記憶が影響しているのかもしれませんね。

夢の箱舟
小澤 摩純　作

作者紹介
挿画のほか、グリーティングカードやお菓子のパケージデザイン、陶磁器のデザインなど多方面で活躍。

今回紹介した作品のように、絵には作者の育った環境や体験が反映されることもあります。つまり作者の生い立ちなどから作風が育った経緯を知り、作品の意図を紐解くことで、より深くその作品を理解することができるのです。

ちなみに知識を深めるのにおすすめなのが、美術館のギャラリートーク。最近はオンラインのものもあるので、おうちでも気軽に参加できますよ◎

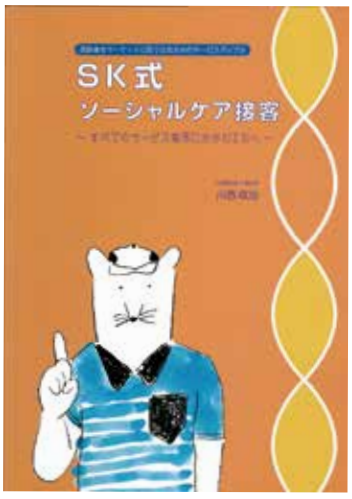
Text by kikoukai hensyubu Chiharu Aita

KIKOUKAI COLUMN①　SK 式ケア接客のルーツを辿る

すべては、今のサービス業界の「なぜ?」から始まりました。

「おもてなし」文化は日本では定着しており、日常の様々なシーンで体感できます。これらは、国内のサービス業において業務としては欠かせない行為でもあります。しかし世界的に見ると、「おもてなし」文化は、日本独自のものといえます。その「おもてなし」のサービス対象の多くが高齢者となれば、一般的なおもてなしとは異なる、高齢者に特化したものが必要となってきます。

この『SK 式ケア接客』とは、福祉業界において高齢者と20年以上関わってきた我々が、これからの高齢者社会を見据え、高齢者の持つ特性と向き合い、「おもてなし +α」として接客サービスを向上させるために開発したメゾットです。高齢化する社会や地域に対し、様々な日常的な高齢者へのサービスをソーシャル『SK 式ケア接客』として提供することで、より暮らしやすい街づくりが出来ますことを心から願い、今後も提案、発信していこうと思っております。



発売日：2017 年 11 月1日
介護現場で得た経験から、一般的な接客サービス哲学を基に、これからの高齢化社会を見据え、高齢者の持つ身体特性と向き合った「おもてなし +配慮」を加えた接客サービスを向上させるため開発したメゾット本。

社会福祉法人 基弘会

Bar「アミーゴ」

昭和の路地裏にある Bar

平成 27 年にリノベーションし、これからの高齢者が通いたいと思える空間デザインへと工夫を重ねた一室がこの Bar「アミーゴ」。そのデザインを見たとき、想起するものは人それぞれ違いはあるものの、何かしらの想いを馳せる空間という演出を施しました。無機質な空間では想起するきっかけが生まれません。ミラーボールやら、インベーダーゲームやら、なんだか少々カオスな空間にはなっていますが、同じ時代の中で生きてきた人たちのパーツが混在しているような、そんな空間に仕上げてみました。

例えば親しい仲間と心行くまで楽しむカラオケ。卓を囲んで真剣に向き合う麻雀。本格的なコーヒーを喫茶店で飲むように利用できるカフェ。

目に見えるものだけでなく、そこで使うモノや提供されるもの。その全てが本物である事こそが、デザインの仕掛けが最大限に活きてきます。

介護施設の当たり前を見直し、本当に過ごしたいと思える場所へ。オフィスをスタンド型にしたりと、基弘会の新しいチャレンジをこのリノベーションで具現化した事がココナラ巽やリズムタウン仙台といった『次世代型介護施設』の空間デザインの礎になっていきました。

我々は次の時代がどう変化するかを読み解きながら、それをデザインに落とし込んでいく事を介護施設事業者と共に考え生み出しています。

▲デイルームの一角にある Bar アミーゴ。
中に入るとノスタルジックな空間が広がる

株式会社 Lokal Japan
代表取締役
島　直哉　氏

1996 年デザイン企画会社として創業。大手インテリア雑貨・食品分野・エキナカ業態等のディレクションに携わる。 デザインプロデュース（商品開発戦略支援）から、ブランドプロモーション（デザイン開発支援）、クリエイティブ開発（デザイン制作）までトータルに展開。2014 年、（株）ロコールジャパンに改組し、海外マーケティングのグローバルな活動を本格化。
JAGDA 会員
一般社団法人ローカフェイン緑茶推進協会　理事
国立神戸大学主催選出大学対抗ゼミ実行委員長など

事業所紹介

ちいきのきずな 夢の箱

□ **特別養護老人ホーム夢の箱 勝山**
〒544-0021 大阪市生野区勝山南1丁目17番43号
TEL:06-6712-2220 / FAX:06-6712-2224

□ **夢の箱生野**
〒544-0025 大阪市生野区生野東2丁目5番8号
TEL:06-6715-2188 / FAX:06-6715-2224

□ **夢の箱生野サテライトオフィス**
〒544-0023 大阪市生野区林寺1丁目1番9号
TEL:06-6712-3039 / FAX:06-6712-3043

全方位型リハビリテーション coconará ココナラ巽

□ **ココナラ巽**
〒544-0015 大阪市生野区巽南3丁目4番25号
TEL:06-6753-2333 / FAX:06-6753-2334

CLINIC coconará ココナラ巽クリニック

□ **ココナラ巽クリニック**
TEL:06-6753-2211 / FAX:06-6753-2311

おとなの毎日を、編集しよう。 リズムタウン仙台

□ **リズムタウン仙台**
〒981-3123 宮城県仙台市泉区古内字坂ノ上16番6号
TEL:022-378-8050 / FAX:022-378-8139
小規模多機能型居宅介護 / TEL:022-378-8060

KOKORO

□ **夢の箱保育園KOKORO**
〒544-0025 大阪市生野区生野東2丁目4番7号
TEL:06-6741-6111

社会福祉法人 基弘会 kikoukai.jp 【基弘会本部】大阪市生野区生野東 2-5-8 TEL:06-6715-2188